

令和7年度 阿波市総合教育会議 会議録

(1) 会議 開催日

令和7年12月17日（水） 阿波市役所 2階 災害対策本部室
午後2時00分から午後3時10分まで

(2) 出席委員の氏名

市長	町田 寿人
教育長（委員）	高田 稔
職務代理	細川 敬雄
委員	森本 匡史
委員	吉原 美穂
委員	森 文彦
委員	曾川 京子

(3) 委員を除く、議場に参加した人の氏名

阿波市議会議長	笠井 安之
阿波市議会副議長	北上 正弘
阿波市議会 文教厚生常任委員会	
委員長	吉田 稔
副市長	安丸 学
政策監	正木 孝一
教育部長	小松 隆
教育部次長	三宅 剛
教育部次長	板東 毅
学校教育課長	井内 徹
社会教育課長	藤原 洋文
学校給食センター所長	石原 かおり
教育研究所研究員	雲本 大将
理事兼企画総務部長	坂東 孝一
企画総務部次長	古川 秀樹
企画総務課係長	大道 剛

(4) 傍聴人 0名

古川次長	<p>皆さんお揃いですので、ただ今から「令和7年度阿波市総合教育会議」を始めさせていただきます。本日司会進行をさせていただきます企画総務課 古川でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。</p> <p>本日の出席者につきましては、別紙2の席次表のとおりでございますので、紹介に代えさせていただきます。</p> <p>なお、議事録作成のため、録音させていただきますことに、ご了承くださいますようお願いいたします。</p> <p>それでは始めに、町田市長よりごあいさつを申し上げます。</p>
町田市長	<p>皆さん、こんにちは。阿波市長の町田寿人でございます。「令和7年度阿波市総合教育会議」にあたり、一言ご挨拶申し上げます。</p> <p>本日は、「令和7年度阿波市総合教育会議」を開催しましたところ、阿波市議会より、笠井安之議長を始め、北上副議長、吉田文教厚生常任委員会委員長には、公私共に大変お忙しい中、ご臨席を賜りまして、誠にありがとうございます。また、ご参会の教育委員の皆様方には、日頃より本市行政全般、特に教育行政の推進に格別のご尽力を賜っておりますことに、心から厚くお礼を申し上げます。</p> <p>さて、本市では、「子育てするなら阿波市」をキャッチフレーズに、様々な事業を行っております。しかしながら、少子高齢化の影響により、現在、徳島県の人口は68万人を下回っており、25年後の2050年までに、何も対策を講じなければ、50万人を下回る見込みであります。そして阿波市におきましても、現在の人口は3万人を上回っておりますが、これも対策を講じなければ、25年後には2万人を下回る可能性があります。全国におきましても同様に、約1億2,000万人の人口が1億人を下回ると予測されております。そして考えられる対策は、市議会の意見も聞きながら取り組んでおり、今後においても教育環境の充実は、非常に大事なことだと考えております。</p> <p>こういった中で、今年度の新しい取り組みといたしましては、教育費の負担が大きい中学生のいる子育て世帯の経済的負担の軽減を目的に、令和7年4月より市内在住中学生の学校給食費を無償化しております。また通学用カバン配付事業を実施するなど教育分野のさらなる充実・強化に取り組んでいるところであります。</p> <p>本日の阿波市総合教育会議は、市と教育委員の皆様方が互いの役割や、権限を尊重し合いながら、意見交換を重ね、将来像や課題を共有し、「子どもは阿波市の将来を担う大切な宝である」との共通認識をより一層深めることのできる重要な機会だと考えております。</p>

古川次長	<p>今回は、「阿波市教育大綱の改訂」や「令和7年度市教委学校訪問（タブレット端末の利活用）」、「夏季休業期間の見直し」を議題とさせていただきます。</p> <p>後ほど事務局より、本市の現状や取り組みなどにつきまして、説明をさせていただきます。委員の皆様方におかれましては、忌憚のない意見、ご提言を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。開会の挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして、高田教育長よりごあいさつを申し上げます。</p>
高田教育長	<p>本日は、笠井安之議長様、北上副議長様、吉田文教厚生常任委員会委員長様のご出席をいただき、阿波市総合教育会議が開催されますことを、大変うれしく思っています。</p> <p>最初に、先ほどの市長さんのご挨拶とも少し重なりますが、この場をお借りしまして、今年度の教育委員会の主な事業についてご報告させていただきます。</p> <p>ソフト事業では、通学用カバン配付事業を実施しています。入学予定児童のほとんどが希望しております。また、今年の夏には、児童・生徒のコンピューターとソフトウェアの両方を更新しました。さらには、市内在住中学生の給食費無償化を実施するとともに、小学校給食費は物価高騰分を補助しているところでございます。</p> <p>ハード事業としては市内小中学校体育館アリーナの照明をすべてLEDに改修しました。また、阿波中学校校舎屋上の防水改修工事を行いました。</p> <p>市長さん並びに議会の皆様方には、常に子どもたちの教育環境の整備や充実に、ご理解・ご支援をいただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、この総合教育会議は、市長と教育委員会が、十分な意思疎通を図り、より一層、民意を反映した教育行政を推進するために行う会議となっております。今日は、教育現場の現状や行政施策について報告させていただきます。取組への成果や課題を共有しながら、ご指導をいただき、今後の教育行政に活かしてまいりたいと考えています。どうか忌憚のないご意見をいただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります町田市長にお願いしたいと思います。</p>
古川次長	<p>それでは、議題に入りたいと思います。議事の進行は主催者であります町田市長にお願いしたいと思います。</p>

町田市長	<p>町田市長、よろしくお願ひいたします。</p> <p>次第に従いまして、議事を進めてまいりたいを思います。皆さん、ご協力の程よろしくお願ひします。まず、議題1、「阿波市教育大綱の改訂について」、事務局から説明をお願ひします。</p>
三宅次長	<p>阿波市教育大綱の改訂について説明いたします。初めに、教育大綱の性格と役割について説明します。「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の3第1項の規定に基づき、阿波市教育大綱は、本市における教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の目標や根本となる方針を定めるものでございます。そして、本会議において、市長と教育委員会が協議・調整したうえで、市長が策定するとなっております。</p> <p>続いて、教育大綱と関連計画との関係について説明いたします。今回策定します「阿波市教育大綱」は、第3次阿波市総合計画並びに第3次阿波市総合戦略における教育・文化分野についての上位概念にあたります。また、「阿波市教育大綱」の行動計画が、「阿波市第2次教育振興計画」（後期計画）になります。次に、阿波市教育大綱と関連計画のそれぞれの推進期間を表に表すと、このようになります。教育大綱の期間は、文科省からの通知には、4～5年程度が目安として示されておりますが、今回策定します阿波市教育大綱の期間については、市の総合計画や教育振興計画と同じ5年間とし、令和8年度から令和12年度までを推進期間と考えております。また、それに併せて、今年度において阿波市第2次教育振興計画後期計画を策定する予定でございます。</p> <p>次に、阿波市教育大綱（案）について説明いたします。令和3年から令和7年までの5年間は、第2次阿波市教育振興計画前期計画の施策の目標や根本となる方針の部分を阿波市教育大綱と位置付け、推進しておりました。今回提示させていただく阿波市教育大綱につきましては、今年度から実施されている第3次阿波市総合計画並びに第3次阿波市総合戦略の教育・文化分野との整合性・一貫性を図り、教育大綱の基本理念や基本方針を明確にすることを目的として、平成27年度に策定し、令和2年まで推進していた阿波市教育大綱の基本理念や基本方針をもとに、再整理を行い、素案を作成しております。そして、この阿波市教育大綱のもと、第2次阿波市教育振興計画後期計画において、6つの教育目標を掲げ、これに基づいた様々な教育施策を実施することにより、阿波市教育大綱で示す基本理念や基本方針の実現をめざしたいと考えております。お手元の資料の3ページの下段に、阿波市教育大綱（案）</p>

	<p>を載せております。基本理念は、『みんなでつくる 未来に誇れる やすらぎのまち 阿波市』の実現に向け、市の将来を担う人材育成を推進します。学校・家庭・地域が一体となり、豊かな学びの環境を充実させ、子どもたちが伸び伸びと育ち、未来を切り拓く力を身につける教育の実現をめざします。」としております。続いて、基本方針は、「1 食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」、「2 主体的・対話的で深い学びを創造する情報教育の推進」、「3 個性を尊重し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」、「4 郷土を愛し、地域の歴史・文化・伝統を継承する教育の推進」、「5 生涯にわたって学習できる教育環境の充実」、「6 誰もが気軽にスポーツに親しめる教育環境の充実」、「7 人権を尊重し、広い視野と国際感覚を備えた、自立した人材の育成」、「8 学校・家庭・地域の協働による一体的な教育の推進」の8点でございます。委員の皆様には、本案につきまして、ご協議いただきますよう、よろしく願いいたします。以上で阿波市教育大綱の改訂についての説明を終わります。</p>
町田市長	<p>事務局から「阿波市教育大綱の改訂について」の資料に基づき説明がありました。この件につきまして、ご意見等をいただきたいと思います。</p>
細川職務代理	<p>教育委員の細川です。よろしく申し上げます。阿波市教育大綱の改訂(案)について説明をいただきました。大変よく分かりました。ありがとうございました。</p> <p>教育大綱は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、阿波市における教育、学術、文化及びスポーツ振興に関する総合的な施策の目標や根本を定める大変重要なものです。私なりの意見や感想を述べさせていただきたいと思います。</p> <p>基本理念として、阿波市が目指す将来像が「みんなでつくる 未来に誇れる やすらぎのまち 阿波市」と変更になり、その理念実現のため、8つの基本方針が示されています。</p> <p>1つ目の柱、「食育を基盤にした、知・徳・体の調和のとれた生き抜く力の育成」は、前回の基本方針をそのまま継承しています。食育を基盤とするというのは阿波市誕生以来、学校教育で言われていたことで、農業が主産業である阿波市に沿ったものだと思います。</p> <p>2～8の柱については、「主体的、対話的で深い学びを創造する情報教育の推進」と情報教育が一本の柱として示されています。阿波市では、先ほど説明がありましたように、今年9月から新しいタブレットが導入</p>

	<p>されて、各学校で効果的に活用されています。次期学習指導要領では情報教育の分野が入ってくるようにも聞いています。今後の教育を見据えた的を得た方針だと思います。</p> <p>前回の基本方針では、「何々づくり」とか「何々の形成」という基礎、基本を作るという表現が多かったんですが、今回の案では、今年まで取り組んだその基礎をもとにして、さらに進めるという形で、「何々の充実」であるとか、「何々の推進」という表現で、1歩進んだ感じを受けます。</p> <p>また、特別支援教育では、「個性を尊重し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進」となっていて、より具体的な表現となっています。また他の方針でも、市民の方にイメージしやすい、より分かりやすい方針になったと思います。</p> <p>令和8年度から5年間の推進期間にふさわしい内容で、この大綱を受けて、様々な教育施策を推進していただけたらと思っています。私からは以上です。よろしくをお願いします。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。ほかに、ございませんか。</p>
森委員	<p>教育委員の森です。現在の教育大綱のもと、作成された第2次教育振興計画では、様々な施策が実施され、その効果について、毎年、詳細に検討され、報告書が作成されてきました。私も報告書の点検評価の会に、3回参加させていただきましたが、事業の達成状況を厳しく評価し、改善していこうとしている皆様の姿勢にいつも頭が下がります。</p> <p>さて、阿波市教育大綱の改訂（案）についてですが、次の教育振興計画のもとともなるものだと認識しています。「みんなでつくる 未来に誇れる やすらぎのまち 阿波市」という第3次阿波市総合計画で示された、10年後の将来の実現に向けた人材育成を推進するという基本理念のもとに、8つの基本方針が明示されています。継続すべきことはすべて方針に盛り込まれていると感じますし、「主体的・対話的で深い学びを創造する」、「個性の尊重」や「広い視野と国際感覚」など、これからの社会にふさわしい教育方針が整理されて、組み込まれていると感じますので、次の教育大綱として、ふさわしいと考えています。以上です。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。ほかに、ございませんか。</p> <p>それでは、改訂案のとおり決定することで、ご異議ございませんか。ご異議がございませんので、新たな「阿波市教育大綱」を決定いたします。</p>

町田市長	<p>す。なお、改訂した場合には、遅滞なく、これを公表しなければならないことから、12月改訂といたします。</p> <p>続きまして、議題2、「令和7年度市教委学校訪問（タブレット端末の利活用）について」、事務局から説明をお願いします。</p>
雲本研究員	<p>それでは、令和7年度市教委学校訪問（タブレット端末の利活用）について説明をさせていただきます。</p> <p>まずは、目次をご覧ください。最初に、学校訪問の実施状況について報告させていただきます。次に、今年度導入されたタブレット端末やアプリについてご紹介します。また、阿波市でのICTの利用率の推移についてもご紹介します。そして、土成小学校や吉野中学校でのICT活用事例を紹介し、最後に、阿波市教育研究所での取り組みについてお話しします。このように、今日は5つの主要な項目についてお話しさせていただきます。</p> <p>それでは、次のスライドに進みます。今年度は小学校3校と中学校2校への訪問を実施いたしました。このうち、文教厚生常任委員会の皆様には小学校1校、中学校1校に訪問いただきました。訪問を通じて、各校の教育環境やICT活用の現状を詳しく視察していただきました。訪問後にいただいた講評と助言は、各校の教育活動の大きな励みとなります。本当にありがとうございました。今後は、この貴重な助言を最大限に活かし、阿波市教育委員会としてさらに教育の質を向上させるために、各校と協力して取り組んでまいります。</p> <p>次に、新しいタブレット端末とアプリについて、紹介させていただきます。阿波市では、GIGAスクール構想第2期として、いち早く新しいタブレット端末への更新を行いました。前回の端末では不具合が多く、教職員が「授業で使いたいのに使えない」という声が多く聞かれました。そこで今回は全国で約60%のシェアを占め、より安定性が高く、管理が容易なChromebookに変更することで、この課題を解決しました。これにより、教職員や児童・生徒が安心してICTを活用できる環境が整いました。今後もこの環境を活かして、教育効果を最大限に引き出したいと考えています。</p> <p>次に、新しい教育ツールとなるアプリについてお話しします。1つ目は、MetaMoJiClassroom3です。一斉・個別・協働の多様な学習活動を一つのノートでスムーズに切り替えながら、一人ひとりのノート状況をリアルタイムにモニタリングし、その場で個別指導が可能となるアプリで</p>

す。2つ目は、ミライシードです。全国の小・中学校で広く利用されているタブレット学習用の多機能オールインワンソフトです。子ども一人ひとりの学習状況や得意/苦手をデータで集約し、A I が次に学ぶべき問題を選択し、知識定着から思考力の育成までをサポートします。3つ目は、Terra Talk です。最大の特長は、A I 講師を相手にいつでもどこでも「話す」機会を圧倒的に増やせることです。シチュエーション英会話から各種英語試験対策まで、現場に密着したカリキュラムで「使える・伝わる」英語力を養成します。これらの他にも、学習にいかすことができるアプリを取り入れております。

次に、I C T活用状況について報告させていただきます。4月から阿波市教育研究所で集計した「児童・生徒1日あたりのタブレット使用率」を基に具体的な数値をお示しします。4月から8月までのタブレット使用率については、前端末を使っていた期間となり、学習活動への取り入れが低かったことが分かります。新しい端末が導入された9月からは、使用率が大幅に上昇し、教育活動にしっかりと取り入れられていることが確認できます。

次のスライドからは、具体的な活用事例を見ていただきます。こちらは、土成小学校の6年生が算数「データの整理と活用」でI C Tを活用しながら学習を進めている様子です。児童はこれまでに調べたデータをタブレットに入力・整理し、その特徴をグループで読み取っています。そして、どのチームが代表にふさわしいかを考える場面が見られます。このように、I C Tを使うことで、データ分析のスキルを実践的に学ぶことができます。現代の教育におけるI C Tの重要な役割の一つと考えております。吉野中学校では、英語学習アプリ「TerraTalk」を活用しています。このアプリを使って、個別に英単語を覚えることができるだけでなく、生徒同士が共同で学習する姿も見られます。このように、I C Tを活用することで、個々の学びを深めるだけでなく、協力して知識を共有する機会が増えています。このアプローチは、生徒たちの英語力を向上させるだけでなく、学習をより楽しく、意欲的に行えるようにしています。また、吉野中学校では世界中で数億人が利用するオンラインのデザイン作成プラットフォーム「Canva」を使用して、音楽の授業でオリジナルのミュージックビデオを作成しています。このアプローチは創造性を引き出すだけでなく、チームワークや協力の重要性を学ぶ良い機会となっています。完成した作品を見ていただくと、生徒たちの個性や努力の成果が感じられます。このような活動は、単なる学習の一環ではなく、実際に何かを創り出したという達成感を味わえるもので

	<p>す。このようにICTの活用は、教育に新たな可能性をもたらします。生徒たちが自らのアイデアを具体化する過程を支え、学びをより深いものにしていきます。</p> <p>最後に、教職員や児童・生徒がタブレットをより効果的に活用できるように、さまざまな活動を行っておりますので、その取り組みについて紹介させていただきます。まず、2年生向けのICT活用授業についてです。毎月市内10校へ訪問し、直接指導することによりICTの知識やタイピング技能の向上に努めております。その他に、Google Workspace for Education 研修やKickstartプログラムを開催しております。これらの研修は、教職員がデジタルツールを活用して授業をより効果的に進めるためのスキルを身につけることを目的としています。これらの取り組みを通じて、私たちはより良い教育環境を提供し、教職員の働き方改革や児童・生徒の効果的な学習をサポートしてまいります。私からの報告と紹介は以上です。ありがとうございました。</p>
町田市長	<p>事務局から「令和7年度市教委学校訪問（タブレット端末の利活用）について」の資料に基づき説明がありました。</p> <p>この件につきまして、お一人ずつ、ご意見等をいただきたいと思えます。細川職務代理からお願いいたします。</p>
細川職務代理	<p>よろしく申し上げます。先ほど事務局より説明がありましたように、10月に令和7年度の市教委学校訪問で小学校3校、中学校2校の学校訪問に参加させていただきました。</p> <p>各学校で授業参観と施設見学、校長先生から経営説明をいただきました。どの学校とも、児童・生徒や地域の実態を生かして、充実した学校教育が展開されていると感じました。また、施設設備面においても、阿波市は学校教育に力を入れていただいておりますので、快適な学習環境の中、生き生きと学習に取り組んでいる姿が見えました。</p> <p>今年9月までに、新しいタブレットが1人1台配付されました。各学校とも積極的に授業の中で、タブレットを利用していました。小学校1年生から中学校3年生まで、ICT機器の利用、学習の積み上げがよく分かりました。昨年までですと、学校訪問の授業参観中にタブレットの不具合があって、同行していたICT支援員の先生が子どもの手助けをするという様子が見られたのですが、今回の訪問では、そんな場面もなく、スムーズな動きでタブレットが操作されていました。</p> <p>また、画面に書き込むサインペンもタブレットの中に収納されるな</p>

	<p>ど、よく考えられたタブレットの選定ができていると感じました。先生方に聞いてみますと、動作も速くて快適に使えると大変好評でした。また、指導されている先生方の授業力やタブレットなどの情報機器の活用力、技能も随分向上していると感じました。授業の必要なところで、ICT機器を使う。デジタル教科書をはじめ、いろいろなアプリを使って、子どもたちが自分の考え、意見をタブレット上で作って、グループで共有したり、クラス全員に提示したりして、話し合いを深める様子も見られました。また、クイズ形式で答えるかたちになっていて、子どもの興味が湧く様子も見られました。先生方自身が作られた教材であるとか、地域の特色を生かした教材など非常に興味深い授業をたくさん見ることができて、大変参考となりました。</p> <p>教科においても、先ほど説明もありましたけれども、算数や国語、英語に限らず、理科や社会、また美術や学級会活動などすべての教科で利用でき、児童・生徒の興味を引く効果的な指導ができることも知りました。特別支援教育においてもそれぞれの児童・生徒の特性、個性を大事にして、個々に応じたICT機器の利用ができていると感じました。</p> <p>このような取り組みができているのも、阿波市でいち早くICT機器を取り入れたり、各学校の要望に応じて施設を充実していただいたり、阿波市独自で英語講師であるとか、学力向上支援員、ICT支援員などの人材を確保していただいたりしたおかげだと思っています。</p> <p>これからも、「子どもたちが伸び伸びと育ち、未来を切り拓く力を身につける阿波市教育」の実現のために、教育に対するご支援・ご協力をいただけたらと思います。私の方からは以上です。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。続いて、森本委員、お願いいたします。</p>
森本委員	<p>教育委員の森本です。よろしく申し上げます。先般の関係各位の皆様のご尽力によりまして、本市の小中学校の授業等を見学させていただきました。学生の皆さんが活発に意見交換したり、新しく支給されたタブレットを使って授業を受けたりしている姿がとても印象的でした。また、校長先生自らが学校活動やその特徴を熱く語って下さいました。</p> <p>特に本市では、ICT教育に力を入れており、ICT支援員の方々を手厚く配置し、現場の先生方をサポートしてくださっています。学校訪問の際も、先生方や学生の皆さんがタブレットやスクリーンをスムーズに使いこなしている点はとても印象的でした。</p> <p>一方で、ある学校では、図書室を綺麗に飾り付けて、推薦図書をわか</p>

りやすく、別の棚に配列して、子どもたちに読書を促していたところが、とても記憶に残りました。読書はいろいろな能力を引き上げます。

I C T教育のメリットは、今更ですが、授業中に問題集やドリルを解かせるなどの個別学習の時間では、デジタル教材を用いることで、子どものレベルに合った問題を用意できたり、自主学習においては、インターネットを活用して、調べものをする機会も多い中、子どもたちがパソコンやタブレットで調べたい内容を検索する習慣を身につけることで、求める情報に素早くたどり着ける力や、正しい情報を選択する力を得やすくなります。また、一斉学習ではクラスの情報をコミュニケーションツール上で管理することで、教員が一人ひとりの学習状況や進捗を把握しやすくなると同時に、子どもたちがつまづきやすいポイントや、重点的に教えた方がいいポイントなども、可視化しやすくなるため、教員の指導方針の検討にも役立ちます。グループワークなどの協働学習においても、生徒同士で画面を共有し、簡単に情報共有や意見交換が行えるものもあり、人前での発言が苦手な生徒のサポートや気軽な意見交換の促進につながります。このように様々なメリットがたくさんあると思います。

ただ一方で、I C T教育の先進国である北欧諸国が一部紙媒体の教科書に原点回帰しているとの報道もあります。理由は、児童の読解力の低下によるものであります。ノルウェーの大学の研究所は、読解問題等で、紙で読んだ方が、内容に対する理解度も高く起こりやすいという結果があったり、プリンストン大学のある研究では、講義の理解度調査でパソコンを使用した学生は、手書きの学生に比べて成績が劣ったとあります。パソコンを使用した学生のノートは、講義内容を詳細に書き写したものであったのに対し、手書きでノートを取る学生は、速記ですべてを記録しきれないため、情報を自分なりに要約する必要があったため、このような結果になったとされています。

徳島県の「令和6年度全国学力学習状況調査」によると、小中学校ともに授業改善が見られるものの、国語の「書くこと」と「読むこと」に課題が見られ、これからの多様で複雑な時代を生き抜く児童・生徒には、様々な様式で伝えられる情報を読み取る力や、自分の考えを形成するために必要な情報を取捨選択し、選び取った情報を解釈したり、活用する力が必要であり、この力を身につけ、社会を生きるためには必要なる力を、「徳島版読解力」として、すべての授業で、その力を育成するとあります。まさにその通りだと思います。社会にでると、相手の話の内容を、自分の中で要約して理解し、自分の考えを相手にわかりやすく伝えた

	<p>り、書類に書いてある大事なポイントをいち早く抽出し、咀嚼して理解するといった能力が求められると思います。</p> <p>日本でGIGAスクール構想が始まって、今年で9年目です。日本でもいろいろなデータが蓄積される頃ですし、各国の研究データも日々更新されていると思います。しかし、子どもたちの小中学校時代は、1回限りです。学校の先生方におかれましては、日々の激務でご苦労されていると思います。今更ですが釈迦に説法と重々承知しておりますが、そんな中でも、ICTだけに頼り切ることなく、情報をアップデートし、先ほどの図書室のように、学校生活において、子どもたちの人生が豊かになる方法を創意工夫していただくように切にお願いしたいと思えます。以上でございます。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。続いて、吉原委員、お願いいたします。</p>
吉原委員	<p>本年7月より、教育委員をさせていただいております吉原と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>10月に学校訪問し、その意見と感想を述べさせていただきます。かねてより、阿波市では急速な情報社会の進展に対応するため、GIGAスクール構想の実現に向けて、改革、整備されてきました。児童・生徒1人1台のタブレット型端末の配備や高速大容量ネットワークが一体的に整備されるなどの教育環境の整備です。現在は、GIGAスクール構想が始まって以来、阿波市全域の小学校・中学校で1人1台の環境を実現しています。そして、令和7年度の2学期から更新したタブレット型端末と新しく導入したアプリケーションを使用して学習できるようになったと聞きました。その様子をご報告いたします。まず、私が学校の授業を見せていただくのは、9年ぶりで行っていただきました。自分の子どもたちの授業参観から遡ること17年ほど、1市民の目線で見ると、率直に驚いたことを申しますと、市内の学校各教室にタブレット型パソコン、デジタル教科書、電子黒板機能付プロジェクターなどのICT機器が多く、非常に充実していることでした。以前は、コンピューター教室にしか情報機器はなく、それが普通の教育環境でした。そして、その機器を活用した「楽しくてわかる授業」の実践に、ICT支援員を含む先生方全職員で取り組まれていることがわかり、素晴らしいと思いました。少し前の世代では、パソコンやタブレットでの学習というと、総合学習の調べ学習が多いと思われがちですが、どの教科でもタブレットを使った授業が行われていました。国語、社会、算数、理科、道徳、数学、英語</p>

など多くの教科でタブレットを利用した授業を見せていただきました。パソコンやタブレットを使った授業といえば、一般的に考えると、一斉に前を向いて黙々とキーボードを打ち込んでスキルを学んだり、作業したりする姿が想像されますが、そこも違っておりました。小学校低学年では、タブレットを使用する場面で、隣の席と机を合わせて、2人で行うペア学習。中学年、高学年や中学生では、机を4つ合わせたグループ学習の形態もあり、その授業の目当てや目的によって変えられていて、どのようにしたら、子どもたちが主体的、対話的な深い学びができるのかという先生方の意図や工夫が感じられました。

子どもたちの様子は、タブレットを操作するのを面白そうに、また友達と楽しそうに意見を交わす場面もあり、意欲的に学習できていました。タブレットに自分の意見やグループで話し合った意見をまとめて書き込むと、前の黒板にある大型スクリーンに瞬時に映し出されて、それぞれの意見が一目瞭然、視覚的によくわかるようになっていたことは、デジタルならではの速さやメリットを感じました。普通なら先生の板書をじっと待っている場面です。また、他の人の意見で気づきもあり、違った人の意見を認め合う大切さも見てとれました。授業後の振り返りがしやすいのも良いと思いました。指導される先生方の手元には、クラスの子どもたちの作業の様子が瞬時でわかるようになっていて、進まずに困っている子どもには掘り下げた質問で導き、T Tの先生がそっと寄り添い、対応されている場面もありました。各学校とも学級における2人指導体制で手厚い指導が行われていました。支援が必要な子どもたちに対しては、個別指導で、子どもの学習の進捗状況によって、一人ひとり子どもに先生が寄り添って、落ち着いて学習が進められていました。また、不登校など、様々な理由で登校が困難な子どもも平等に学ぶことのできるように、ICTを活用した学習機会の拡大も今後、期待しています。

それから、6年生の学級では、総合学習の一環で、「修学旅行の思い出」をクラス全員でプレゼンテーション資料を作成し、発表する場面も見られました。このように調べたことや、経験したことをパソコンでまとめて、他の人にわかりやすいように表現する力は大切で、近い将来、自己実現していく上で基盤となっていくことでしょう。ただ、YouTubeやゲームをする「受けとる側」から「生み出す側」へと変わると、可能性が広がり、クラス全員で1つのものを作り上げた楽しさも大切にしてほしいと思いました。

やはり、パソコンやタブレットは家庭でもどこでもできますが、学校

に来て学ぶ価値は、「20人、30人の学級の仲間が集まって学ぶこと」にあると思います。一人ひとりがコンピューターで作業しつつ、簡単な操作で、グループでの協働作業が行え、自然なかたちで周りの友達に相談したり、教え合ったりして学び合うことが大切だと感じました。このような学習活動を継続して実施することで、「伝える力」や、「主体的に協働で学ぶ力」が身につく、生き抜く力となってほしいと考えています。

次に、先生方はよく研鑽されていて、授業のツールとしてタブレットを活用し、結果、円滑で効率の良い授業を展開されていました。更新したタブレットになり、授業の導入からタブレットに移行するときも、とてもスムーズで、立ち上がりのロスや不具合がでるといったトラブルもなく、授業の中にツールとして自然に組み込まれていて、個々で努力され、普段からよく活用されていると感じました。他にICTを使っていく上での相談体制も確立されていて、教育研究所研究員やICT支援員の方が、各学校に出向き、技術面や運用面でのきめ細やかな支援やサポートがあったからこそ、この成果につながっていると思い、関わってくださった教育関係者の方に感謝いたします。また、子どもたちが情報化社会で幸せに生きるために、情報を正しく活用する能力「情報リテラシー」を育成し、「情報モラル」として他者を傷つけない、プライバシーを守るなどの責任とルールをしっかりとご指導いただきたいと願っています。

最後になりましたが、訪問させていただいたどの学校も、それぞれの地域の特長を生かし、児童・生徒を中心に据えた環境づくりがなされていました。教室の後方の掲示物は、担任の先生方の工夫で、年間通じて、子どもたちの活動の様子や作品、作文、今知りたい情報を提示するなど、丁寧にご指導されていると感じました。地域の方々は、学校教育に理解があり、学校行事や奉仕活動に積極的にご参加、ご協力いただいております。地域で子どもたちの成長を見守る体制や連携がみられました。そのような良い環境の中で、小学校の児童は活気があり、大きな声で音読し、友達の意見を「いいです」と認め合っていました。中学校の生徒は、落ち着いて集中して学習に取り組み、生き生きと活動している様子がよく分かりました。今後も、子どもたちを取り巻く教育環境は目まぐるしく変化し、進化し続けていくと思われまます。従来の体験を重視した教育にICT教育を加えることで、学習効果を高め、阿波市の子どもたちの学力が着実に向上でき、より生き生きと楽しく学校で学べますように、今後も市長様をはじめ、議会議長様ほか関係者の皆様方のご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

町田市長	<p>ありがとうございました。続いて、森委員、お願いいたします。</p>
森委員	<p>教育委員の森です。学校訪問をして感じたことをお話しさせていただきます。今年度の学校訪問は10月からでしたが、私は非常に楽しみにしていました。新しいタブレット端末が子どもたちに支給され、それを活用しているのを見ることができるからです。昨年度までの学校訪問でも、タブレット端末を活用した授業を見せていただきました。非常にスムーズに文字入力ができる子ども、授業中にバッテリー切れになっても、自分で対応している子どもを見て、自分の学習道具として、タブレット端末を使いこなしている子どもたちがいることに、阿波市の教育の進展を感じてきました。</p> <p>今年、新しいタブレット端末を利用した授業を見せていただき驚いたのは、小学校2年生の国語の授業で、先生が「タブレットを出して、『メタモジ』を開いてください。」という指示を出し、子どもたちが、さっと準備を始めて学習に移ったことです。新しいタブレット端末は、使いたいときにすぐに使えるのです。当たり前のことかもしれませんが、それがうまくいかなかった頃のことを知っている者としては、とてもうれしく感じました。</p> <p>また、1つのタブレット端末にイヤホンをつなぎ、3人で同じ音声を聞き、話し合う学習をしたり、タブレット端末を使った発表では、発表者が特に見てほしい図を、手で拡大すると聞き手全員のタブレット端末画面が連動して拡大され、よくわかる説明ができたり、多様な学習が展開されていました。</p> <p>個別指導が必要な場合は、少人数やチームティーチングで授業が実施され、子どもたちの学びを大切にしているのが、よく分かりました。</p> <p>最近、子どもたちがスマートフォンやタブレット等のメディアを使いすぎることの問題が危惧されていますが、校長先生方のお話を伺うと、「タブレット端末を使うことで、効果のある学習に利用しており、何にでも使えばいいとは考えていません。」というお考えを聞きました。また、ある小学校で実践してきた「家庭でメディア利用を控える」取り組みを、「毎週火曜日はメディアコントロールデー」として、所属する中学校区の全学校で取り組んでいるというお話も伺いました。タブレット端末等を活用する新しい時代での、子どもたちの健康についても、考慮されているのが学校訪問でよく分かりました。</p> <p>タブレット端末が新しくなり、性能が良くなったことで、様々に工夫された学習が展開されているのは、タブレット端末導入に際して、研修</p>

	<p>をしっかりされた現場の先生方や、これまでのタブレット端末を利用して、経験を積み重ねてきた先生方や子どもたちの学習の成果だと考えます。そして、このように阿波市の教育環境を、早期に整えてくださった市当局の皆様には感謝申し上げたいと思っています。また、この環境を維持していくためには、今後も予算措置が必要だと思います。限られた予算の中では、なかなか厳しい状況だと認識していますが、阿波市の子どもたちが効果的に未来を切り拓く力を身につけることができるよう、ご配慮をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。続いて、曾川委員、お願いいたします。</p>
曾川委員	<p>教育委員の曾川です。よろしくお願いいたします。私は、昨年から教育委員に任命されまして、今年で2年目になりますが、学校訪問は今年が初めてでございました。小学校3校と中学校1校を訪問させていただきました。かつて教員として働いていた時とは違った目で、学校を見せていただき、気づいたことや感じたことなどをご報告させていただきます。まず、私が訪問したどの学校も共通して、非常に落ち着いた環境を整えられていて、そして規律がある中で、子どもたちが伸び伸びしている印象を持ちました。先生とのやりとりや大きな声の挨拶、子どもたちが臆することなく自分が思いを言えており、それを先生方が一つ一つ大事に取り扱っていると、どの学校でも感じました。教育をすすめる重要な基盤として、教員と児童・生徒の良好な人間関係がきちんと築かれている様子が見られ、とてもよかったです。</p> <p>また校長先生から様々な経営方針を伺い、豊かな子どもを育てるために、地域の教育力をしっかり活用して、学校だけでなく、地域全体で育てていこうという取り組みをたくさん教えていただきました。そういう中で子どもたちが育っていることを見せていただき、非常にありがたいなと思いました。</p> <p>今回、ICTの活用について、阿波市として非常に力を入れて取り組んでくださっているところです。そのことについての感想ですが、これまでの委員の皆様が言われていたとおり、どの学校も1つの教科に偏ることなく、国語、算数、道徳、理科、美術などあらゆる教科の中に、タブレットを取り入れた授業がされていたと思います。その様子の中で、私がすごくいいなと思ったのは、特別支援学級でした。特別支援学級は、各学校とも多く設置されています。学級の規模や子どもの状況などそれぞれ違う中で、少人数の特別支援学級では、子どもが興味を引く内容の</p>

	<p>教材を先生方が厳選して使用し、楽しみながらタブレットを操作し、内容を理解していけるように工夫しておられるところが、一人ひとりの子どもたちを大切に教育していることがよく見えて、よかったですと思いました。また支援学級以外でも、一斉指導が多くなりやすい普通学級では、子どもたちが一人ひとりの考えや思いを表現し、みんなに知ってもらい、共有できるように、子どもの考えをタブレットに書き込み、それを先生が一斉に把握し、授業の中で必要に応じて提示するなど全体の考えをまとめて深めたり、意見交換したりといった学習が進められていました。本当にいろいろなアプリがあって、いろいろな使い方ができるところを先生方が適切に教材を選んで、活用されていて、ICTの指導力がとても高いということも感じました。こういった先生方のリーダーシップのもとで、ICT教育を積み上げている学校があるということも知りましたし、ある学校では、学校全体で研修をすすめられていることに加えて、さらに先生方が自主的に、研修を進めているとの校長先生のお話もありました。</p> <p>このように阿波市の教育が、特にICT活動をして、今の世の中の流れの中で、子どもたちに必要な力を養っていく方向で取り組まれていることを目の当たりにして頼もしいと思いました。こういうことができるのも、先ほどから委員の皆様も言われていましたが、やはり市が教育環境の整備に、非常に熱心に取り組んでいただいているからこそだと思います。まだいろいろICT活動にも、情報活用の問題点がたくさんございます。そういうことにもしっかり目配りしながら、今後の時代を、自分の力で生き抜いていくためにも、様々なICT活用能力を身につけてほしいと思います。簡単ですが以上です。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。最後に、高田教育長、お願いいたします。</p>
高田教育長	<p>まずは、たくさんのご意見やご感想をいただき、本当にありがとうございました。また教育委員の皆様方には、学校訪問の折にも、毎回、ご指導またお褒めの言葉をいただき、心からお礼申し上げます。校長先生もますますやる気を持って、学校経営していただいているかと思っております。本当にありがとうございます。</p> <p>さて先月、文部科学省の研修会、教育委員の皆様にもご出席いただきましたが、その文部科学省の担当の方から、次期学習指導要領の改訂についてのお話がありました。その中で、特に2つ印象に残っております。1つは、「情報活用能力を高めるために、情報に関する新しい内容や領</p>

	<p>域を設ける」、つまり授業を増やすというなお話がありました。次期学習指導要領改訂が2030年ですが、その前年度、前々年度から先行実施いたしますので、3、4年後には、その方針に基づいて、動かなければならないと思います。情報に関する授業が増えると思われませんが、いろんな教科の中で、何らかの領域を設けるというお話がありました。</p> <p>それともう1つ話されていたのは、「デジタルか紙か」という対立ではなく、「デジタルの力で、リアルな学びをしっかりと支えることが大事」と言われていたことが印象に残っております。今では、ほとんどの小・中学生、小学校高学年からですが、スマートフォンを持って、インターネットを使っております。この現状を考えると、やはりマイナス面を理解しながら、うまく対応する力を身につけることがとても大切であると思っています。先日もある国では、「何歳以下の子どもには、SNSを使わせない」というようなところがありました。そういう選択もあるとは思いますが、日本では、使わないではなくて、どう使うかを教え、そして問題を解決したり、それぞれの個人の力を伸ばしたりするために、活用していかなければならないと感じております。</p> <p>今年度の学校訪問では、どの学校でもICTを使った授業を見ることができました。新しいタブレットに更新して、まだ少ししか経っていませんが、私の予想以上に、子どもたちが、自分の力に合わせて学んだり、画面を通して学び合ったりする姿をたくさん見ることができました。これもICT支援員の先生方や、学校の先生方のご指導のおかげだと思っております。心から感謝申し上げます。学校訪問は、子どもたちの様子や学校の教育環境を知ることができます。また、その中で学校の先生方の声を聞くことで、今後我々がどのような教育行政を進めることが必要かも見えてきます。これからも、学校現場に寄り添った教育を進めるために、いろんな機会を活かして、学校の状況をしっかりと見ていきたいと思っております。以上でございます。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、議題3、「夏季休業日期間の見直しについて」、事務局から説明をお願いします。</p>
三宅次長	<p>それでは、夏季休業日期間の見直しについて説明をさせていただきます。本市は、これまで、阿波市学校管理規則に基づき、夏季休業日の期間を7月21日から8月24日までとし、7日間短縮しておりました。</p>

が、今年度におきましては、試行的に7月21日から8月26日までとし、5日間短縮して実施しました。続いて、今年度の県内の市町村の夏季休業日の短縮期間の状況を説明します。7日間短縮した自治体は、鳴門市、那賀町、北島町の3市町。5日間短縮した自治体は、阿波市をはじめ、松茂町、藍住町、板野町の4市町。1日短縮した自治体が、小松島市の1市。短縮せず、8月31日まで夏季休業日とした自治体が、徳島市をはじめ、16市町村ございます。なお、下線を引いている吉野川市とつるぎ町につきましては、昨年度までは短縮をしていましたが、今年度から短縮なしに変更しております。

次に、夏季休業日期間の見直しを考える本市の主な状況でございますが、1点目、年間授業時数が十分に確保されていること。2点目、8月下旬はまだ暑さが厳しく、屋外での活動が制限されること。3点目が、8月中旬から下旬にかけて、全国中学校体育大会が実施されていることが挙げられます。1点目の授業時数の状況について説明いたします。学習指導要領で示されている標準授業時数は、1015時間ですが、市内の小学校・中学校における令和6年度の平均の年間授業時数は、小学校が1132時間、中学校が1098時間ございました。授業の1時間を1校時とも言いますが、小学校では45分、中学校では50分で行っていますので、実質的な総授業時間は中学校の方が長くなります。授業時数につきましては、文部科学省から通知が出ており、標準授業時数の1015時間を大幅に上回って1086時間以上になっている学校は、見直すことを前提に点検し、教育委員会も指導助言をすることとなっております。この通知に従い、各校において教育課程を計画・実施しておりますので、令和5年度と令和6年度を比較すると、授業時数は減少しておりますが、標準授業時数の1015時間を上回っており、十分確保できていることが分かります。2点目の8月下旬の暑さについてでございますが、本年度は、8月21日から8月31日までの10日間はすべて、熱中症警戒アラートが発表されています。8月は徳島県に熱中症警戒アラートが、20日間発表され、2学期が始まった各学校では、熱中症対策を十分考慮して登下校を促したり、外遊びや水泳など、屋外での活動を制限したりする状況がありました。3点目の全国中学校体育大会の状況でございますが、今年度は、この一覧表のとおり、九州の各県において、8月中・下旬にかけて実施され、赤字で表記している競技に阿波市の生徒が出場しております。令和8年度の全国大会は、同じような時期に中国地方の各県で開催される予定ですが、毎年、全国大会から帰ってきて、あまり休む間もなく、2学期を迎えるという状況になってい

町田市長	<p>ます。</p> <p>そこで、このような状況や、保護者の負担、子育て支援なども考慮しながら、本市の夏季休業日の期間につきましては、来年度から今年度より2日間延ばし、8月28日までとする案を提示させていただきます。以上で、夏季休業日の見直しについての説明を終わります。</p> <p>事務局から「夏季休業日期間の見直しについて」の資料に基づき、説明がありました。この件につきまして、ご意見等をいただきたいと思いをます。</p>
吉原委員	<p>最近、8月下旬の猛暑が続いているとの説明も受けましたが、登下校時や学校生活での熱中症のリスクも高くて、活動がしにくい現状です。子どもたちの安全のために、段階的に短縮することには賛成いたします。またゆくゆくは、他市町村のように、短縮のない方向で考えていただきたいと思いをます。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。ほかに、ございませんか。</p>
曾川委員	<p>私も吉原委員のお話にもありましたように、この短縮（案）には賛成でございます。授業時数の確保も十分できていますし、この暑さの中で、子どもたちを守っていくためには、必要かと思いをます。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。ほかに、ございませんか。</p>
森本委員	<p>皆さんと同じになりますが、夏休みは子どもたちのため、基本的には8月31日まで徐々に短縮していく方向で考えていただきたいと思いをます。</p>
町田市長	<p>ありがとうございました。ほかに、ございませんか。</p> <p>ご意見もないようですので、私からも本日の議題について意見を申し上げたいと思いをます。「令和7年度市教委学校訪問」については、事務局から説明がありましたように、本市では、GIGAスクール構想第2期として、新たなタブレット端末への更新を行っております。導入後の使用率も、大幅に上昇しており、教育ツールとしてAIを活用するなど効果的な授業が進められておりますので、今後におきましても、様々な機能の活用や情報の共有などによる、新しい学力向上の取組みが、さら</p>

	<p>に推進されることを期待しております。また「夏季休業日期間の見直し」については、本年8月に開催しました阿波市まちづくりミーティングにおいて、市内4中学校の生徒会代表から要望もありましたが、児童・生徒の学習状況や、昨今の猛暑への対応、先生方の働き方改革への配慮などを踏まえて、引き続き教育委員会の定例会において、協議を進めてくださいますようよろしくお願いいたします。</p> <p>最後に、本日ご協議いただいた「新たな阿波市教育大綱」の基本理念に基づく「市の将来を担う人材育成」に取り組むためには、教育委員の皆様方をはじめ、保護者や地域の方々のご協力は欠かせないものと考えております。今後とも学力向上の推進、教育環境の充実などの教育振興に、一層、努力してまいりますので、本日ご参加の皆様方には、ご協力の程、よろしくお願いいたします。</p> <p>町田市長</p> <p>続きまして、議題4、「その他」に移りたいと思います。何かありましたら、よろしくお願いいたします。</p> <p>ご意見もないようですので、これで議事を、終了させていただきます。長時間にわたり、委員の皆様には、貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。それでは、この後の進行は事務局にお願いしたいと思います。</p> <p>古川次長</p> <p>皆様、ありがとうございました。</p> <p>本日の会議につきましては、阿波市総合教育会議運営要綱第6条に、「会議の終了後、その議事録を作成し、これを公表するものとする。」とされております。委員の皆様には議事録ができ次第、ご確認をさせていただいたのち、阿波市ホームページへ掲載し、公表する予定としておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、これをもちまして、「令和7年度阿波市総合教育会議」を終了いたします。ありがとうございました。</p>
--	--